

東日本大震災時において、被災地を結ぶ救援ルートとして機能

- ・東日本大震災により、北陸および西日本から山形・宮城方面への救援車両が国道113号を利用。
- ・荒川道路の整備によりルートが多重化され、日本海東北自動車道（日東道）へのアクセスが改善されていたことで、救援活動や避難活動の円滑化に大きく貢献。
- ・被災地から一時避難や生活物資購入に訪れた方々の利便性向上にも寄与。

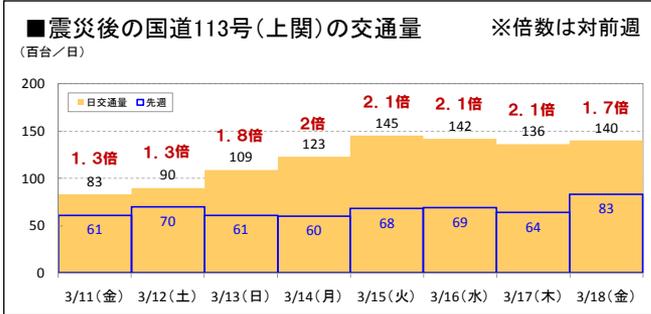


磐越道(福島県区間)、東北道、山形道等の高速道路は、3月11日～24日まで(13日間)一般車両通行止め

<震災後の国道113号の状況>



十文字交差点から山形県境方向 [H23.3.17] 道の駅関川に停車する救援車両 [H23.3.17]



■被災地方向への増加交通量の分担状況

被災地と新潟市間で約4,000台増。このうち5割を荒川道路～日東道ルートが担っている。

ルート	増加交通量(台)
荒川道路	約2,100台増
日東道	約1,900台増

※日平均増加交通量(台) = 震災後(H23.3.14~3.20) - 震災前(H23.2.28~3.6)

■十文字交差点から高速ICへのアクセス時間比較

<比較条件>

- ①荒川道路: 十文字～荒川胎内IC～中条IC = 12分
- ②国道7号: 十文字～中条IC = 17分

荒川道路の整備により、中条ICまで約5分短縮

■上関の車籍別交通量 (台/12h)

車種	割合	交通量
日東道無料化実験前 (H22.6.22)	54%	3,786
日東道無料化実験中 (H22.10.26)	58%	3,908
地震後 (H23.3.22)	36%	7,587

■県内 ■県外